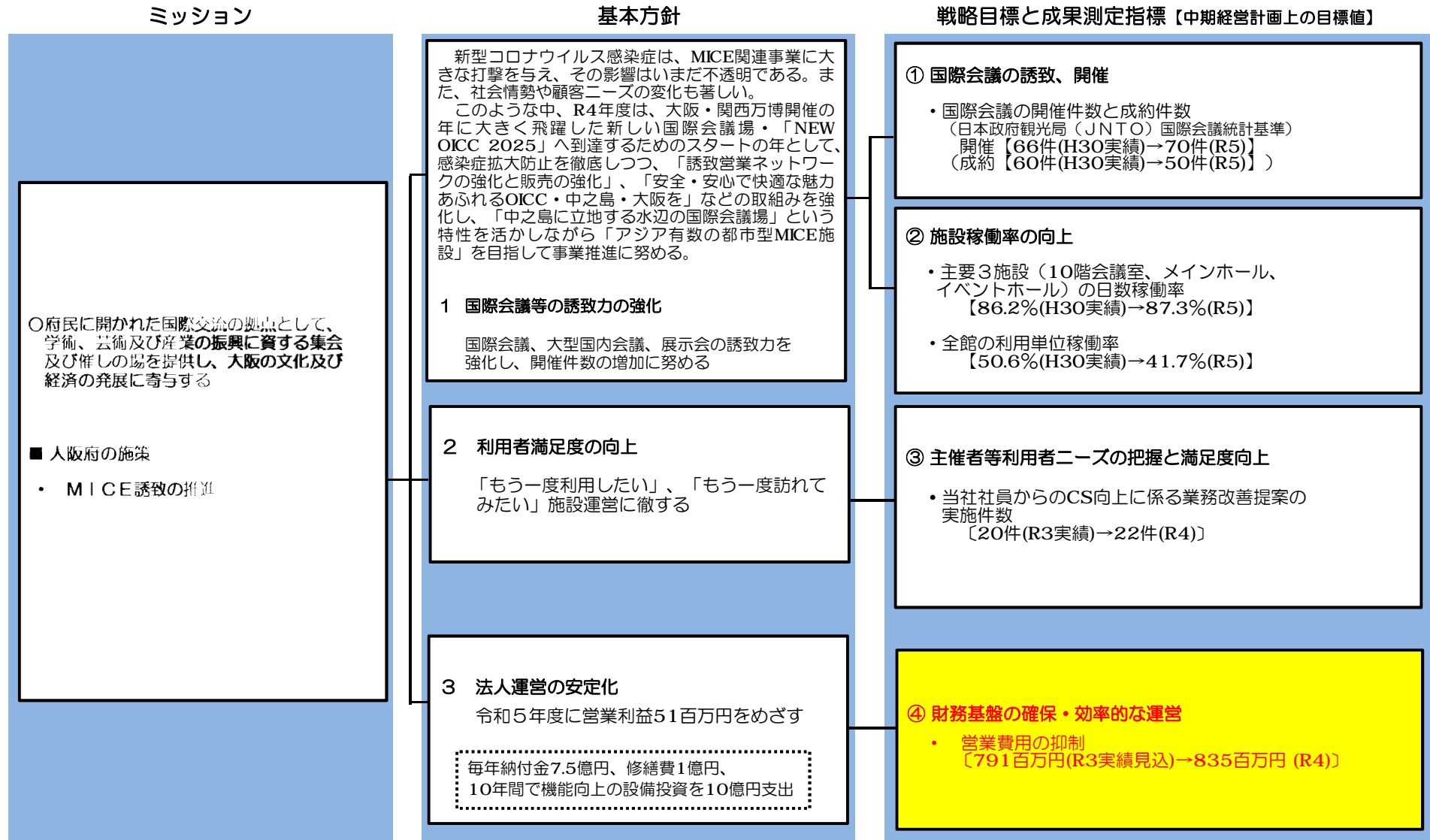


法人名	株式会社大阪国際会議場
作成 (所管課)	府民文化部都市魅力創造局企画・観光課

○ 経営目標設定の考え方



法人名	株式会社大阪国際会議場
-----	-------------

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R3 ウエイト	R2 実績値	R3 目標値	R3 実績値 〔見込値〕	R4 目標値	R4 ウエイト	中期経営計画 (H31~R5)		R4目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R4 目標値	最終年度 目標値		
② 施設稼働率の向上	主要3施設(10階会議室、メインホール、イベントホール)の日数稼働率		%	10	33.7	59.9	接種C込み 81.1 (接種C抜き 53.0)	↓ 53.2	10	86.9	87.3	令和3年度は、自衛隊大規模接種センターが設置され、5月半ばから11月末まで全館利用されたので、稼働率は極めて高くなった。接種センター設置期間以外の稼働率をベースとし、中期経営計画上の令和3年度稼働率目標から令和4年度の稼働率目標の上昇率分の上昇を目指し、令和4年度の目標値を設定する。	(1)新型コロナウイルス感染症対策の徹底、ウイズコロナ時代の新様式に対応したサービスの提供に基づく催事の誘致 (2)e-予約デスクの定着(短期・中小規模催事の誘因及び受付業務の効率化) (3)閑散期の積極的な営業(月曜、GW、7月~8月、1月) (4)適切な予約管理 ①仮予約保留期間の厳正運用による、空き会議室の確保 ②同一催事に係る複数日程の仮予約の整理・削減
	全館の利用単位稼働率		%	5	19.1	49.7	接種C込み 71.3 (接種C抜き 32.8)	↓ 32.9	5	41.5	41.7		
③ 主催者等利用者ニーズの把握と満足度向上	当社社員からのCS向上に係る業務改善提案の実施件数		件	15	19	17	20	22	15	—	—	業務改善に関する社員の提案は順次増加し、年間3件/人程度に達している。引き続き増加を目指し、昨年度実績値の1割増を目標値とする。	(1)当社社員からの提案 (2)業務改善提案審査会にて実施方法を検討 (3)提案内容に基づき適切な時期に実施

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

④ 財務基盤の確保・効率的な運営	営業利益		百万円	30	△883	0	[258]	—	—	—	—	—	—
	営業費用の抑制 ※営業費用のうち、次の費用は除くこととする。 ・売上に応じて変動する「催事サポート費」、「フードサポート費」、「誘致支援費」 ・指定管理者の契約上の義務である「大阪府納付金」、「修繕費」、「機能強化費」 ・売上に応じて変動し、事実上削減が困難な「水光熱費」 ※計算式=営業費用-(催事サポート費+フードサポート費+誘致支援費+大阪府納付金+修繕費+機能強化費+水光熱費)	☆	百万円	-	(747)	-	(791)	↓ 835	30	—	—	新型コロナウイルスによる閉館があったR2年度、及び大規模接種センター設置により催事が約半年間催できなかったR3年度に対し、今年度は特殊要因が見込めず、通常通り催事の誘致・開催を行っていく事からR2年度、R3年度の実績よりも費用は必然的に高くなるが、法人の努力で削減が可能な諸経費の削減に努め、目標の達成を目指すしていく。	必要不可欠な感染症対策や機能維持・修繕工事を除き、 新たな投資を抑制するほか 、諸経費の節減をものとする。なお、人件費については、営業力の強化のため、一昨年度以来の退職者待を補充したことにより増加しているが、適切な賃金制度運用を図り、総人件費が適正な水準になるように努める。

- ・ ↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・ []内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・ ()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名	株式会社大阪国際会議場
-----	-------------

■ 成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

〔1〕

●変更前

R3年度の 成果測定指標	単位	R3年度の 目標値
営業利益	百万円	0

●変更後

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値
営業費用の抑制 ※営業費用のうち、次の費用は除くこととする。 ・売上に応じて変動する「催事サポート費」、「フードサポート費」、「誘致支援費」 ・指定管理者の協定上の義務である「大阪府納付金」、「修繕費」、「機能強化費」 ・売上に応じて変動し、事実上削減が困難な「水光熱費」 ※計算式 = 営業費用 - (催事サポート費 + フードサポート費 + 誘致支援費 + 大阪府納付金 + 修繕費 + 水光熱費 + 機能強化費)	百万円	835

成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由	<p>2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響（入国規制、人流抑制、三密回避等）でMICE産業全般が厳しい環境に置かれる中、当会議場は、自衛隊大阪大規模接種センターが開設され、長期の利用により安定した収益を上げることができた。</p> <p>2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響が続き、海外からの参加者がある会議や展示会はもちろん、国内の会議、展示会等も低調な中、上記のような特殊要因もないまま、グランキューブ大阪の管理運営を行っていくことになる。</p> <p>当社としては、これまでも増して営業力を発揮し、MICE開催のため努力していくが、感染症以前の状況に売上を回復することは当面困難と言わざるを得ない。</p> <p>このため、営業費用を抑制することにより少しでも営業損失を少なくすることを経営の目標としたいと考えている。</p>
-----------------------------	--

■ 令和3年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
全館の利用単位稼働率	%	接種C込み 71.3 (接種C抜き 32.8)	32.9

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>令和3年度は、自衛隊大規模接種センターが設置され、5月半ばから11月末まで全館利用されたので、稼働率は極めて高くなった。接種センター設置期間以外の稼働率は32.8%であった為、中期経営計画上の令和3年度の稼働率目標(41.4%)から令和4年度の稼働率目標(41.5%)の上昇率(0.1%)を目指し、令和4年度の目標値は32.9%とする。</p> <p>【計算式】 32.8(%) + 0.1(%) = 32.9(%)</p>
-----------------------------------	---

〔4〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
営業費用の抑制	百万円	791	835

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>R3年度は、大規模接種センター設置期間は催事が行えなかった為、催事開催に係る備品管理や機器メンテナンス等を行う再委託先業者への委託料が当初の予定より減ったという特殊要因があった。R4年度はそのような特殊要因が無い事、及びR2年度より大幅な稼働率の向上を目指す事から、R2年度、R3年度の実績よりも費用は必然的に高くなるが、法人の努力で削減が可能な諸経費の削減に努め、目標の達成を目指していく。</p>
-----------------------------------	---